



甲府市 薬剤師会 だより

2020年3月

公益社団法人 甲府市薬剤師会
〒400-0857 甲府市幸町14-6
電話番号055-236-5200
FAX番号055-236-5201

皆様の健やかな暮らしを願って

第10号

「第2回 薬物乱用防止キャンペーン」開催報告

(公社) 甲府市薬剤師会 医薬・環境情報委員会委員会 大嶋 了

医薬環境情報委員会では、第1回目のキャンペーンよりも多くの周知をしたいと開催場所をかなり前より健闘し、どうにか甲府駅北口『よっちゃばれ広場』で第2回薬物乱用防止キャンペーンを行う許可をいただきました。

そして、その準備をしてきましたが2月16日(日曜日)当日はあいにくの雨となってしまいましたが、急遽予定を変更して薬物乱用防止キャラバンカーは北口、パネルの展示は昨年同様県立図書館101号室でキャンペーンを行うことにしました。



結果、薬物乱用防止キャラバンカーの乗車は30名ほどで、昨年の乗車者よりは少し少なかったですが、パネルを展示した

図書館の方は昨年並みに見ていただきました。今回、当初考えていた周知はできませんでしたが、駅北口という場所でのキャラバンカーにかかれた『ダメ・ゼツタイ。』の文字はバスを待つ人、駅に向かう人、観光で広場を通る人の目を引いたと思います。

また、最近の芸能人の薬物使用のニュースと薬剤師会ホームページの薬物乱用防止キャンペ

ーンの活動がリンクしていると朝日新聞社甲府局員の記者さんが当日の活動取材にきてくれました。



委員会での総括意見はキャンペーン目的の来場者は少なかったものの薬剤師会としての活動、地域住民への薬物乱用防止の周知の主旨は達成できたのではないかと。今回の雨は本当に残念でしたが、場所はよいのでキャンペーン実施の時期を秋ごろに変更し、またテント・テーブルも借りられるので他の委員会等の活動も一緒に行えれば、薬剤師会の活動がより盛り上がるのではと意見が出されました。

最後に今回薬剤師会の名前を入れた缶バッジも乗車記念に作成し差し上げましたが大変好評でした。

(公社) 甲府市薬剤師会 医薬・環境情報委員会では今後も幅広い層の市民の方々に参加していただけるようにテーマを検討し、有意義なキャンペーンを開催していきたいと考えています。

「2020年度・ 中高生公開講座」 を開催しました。

(公社) 甲府市薬剤師会
生涯学習委員会
薬袋 貴美

「2020年度・中高生公開講座」は、去る2月16日(日)県立図書館多目的ホールにおいて「薬剤師に興味のある中高生のみなさんへ～薬学部ってどんなところ?～」をテーマに企画・開催しました。

講師には東京薬科大学客員教授の宮本法子先生をお迎えし、『薬学部って楽しいですか? 「薬の責任者」& 「街の科学者」をめざす』と題してご講演を頂きました。

講演では、東京薬科大学を例に、薬学部における学びの紹介がなされました。

薬学部には6年制、4年制の2種類の課程があり、薬剤師をめざすためには6年制課程を修めることが必要であります。学びのステップとしては、基礎的な有機化学、物理化学の知識を習得した後、人体のしくみや疾病メカニズム、医薬品の特性を理解し、薬学共用試験(CTB、OSCE)をパスした上で、病院や薬局での実務実習を経て、卒業試験及び薬剤師国家試験に合格しなければなりません。

卒業後の進路は、医療職のみならず、製薬、創薬、治験、化学、食品、国家公務員、教職など幅広いキャリアを選択することができます。

キャンパスライフにおいては、提携海外大学との交流や海外研修を通じてグローバルな視野を得る機会や、さまざまなサークル活動など、充実した学生生活をおくることができる環境が用意されているとのことでした。

会場では、小学5年生から高校2年生までの児童生徒22名が参加し、保護者と共に、熱心に耳を傾けられていました。

薬剤師の仕事に対する受講者の関心は高く、講師との質疑応答も活発に行われました。ある高校2年生の参加者は、「AIが発達していき、10年後には現在ある職業の半数はなくなるという話もあるが、薬剤師の仕事





事はどう変化していくか」といった、今まさに我々が向き合うべき課題について、鋭い質問を投げかけていました。

講演会終了後には、本会生涯学習委員と参加者による個別相談会が行われました。「海外で薬剤師国家資格は通用するか」、「得意な英語を活かせる職場もあるか」など、私たちにとっても現役の生徒たちの関心事を知る有意義な機会となりました。

運営に関しては、事務局の発案で、今回初めて新聞広告に申込 QR コードを掲載したことで、メールによる申し込み件数が飛躍的に増加しました。本委員会では、今後も参加者ニーズに即した講演会を企画・開催していきたいと考えています。たくさんの市民の皆様のご参加をお待ちしています。



「漢方」について②

アトム薬局 大里店

杉野 二三

漢方薬は古来より、煎じ薬（湯薬）・散剤（生薬粉末）・丸剤・膏剤など、4つの剤型が存在します。漢方薬に付けられた処方名に準じた形で服用することで、効能効果を最大限に発揮すると言われています。

『湯』（煎じ薬）

・・・蕩（とう）に通じ、大病を掃蕩するのに用いる



『散』（生薬を粉碎したもの）

・・・散ずるに通じ、急病を解散させるのに用いる



『丸』

・・・緩（かん）に通じ、緩徐に病気を治すのに用いる



確かに、現代的に考えても『湯』は成分が抽出された液体を飲むので、吸収が一番早いと言えますし、『丸』は体内でゆっくりと時間をかけて溶けて、持続的に効き目が現れてくるといふ自然の徐放性効果をもたらします。

よく知られている漢方処方名で言いますと、

- ・「葛根湯」など末尾が『湯』 → 煎じて飲んだ方が効果的である処方
 - ・「当帰芍薬散」など末尾が『散』 → 生薬を粉碎して飲んだ方が良い処方
 - ・「八味地黄丸」など末尾が『丸』 → 生薬を粉碎してハチミツで煉って丸薬にした方が良い処方
- となります。

風邪などの急性期には「葛根湯」、腎気（老化現象など）を補う効果には「八味地黄丸」～なるほど～納得できますよね。

ちなみに丸薬は古来より存在しましたが、江戸時代の町人文化においても大流行しました。それは保存が効き、持ち運びが便利だからです。きっと当時は印籠に丸薬を携え、旅をしていたのではないかと思います。



三越前駅地下コンコースにある「熙代勝覧(きだいしょうらん)」[約1805年]の複製絵巻に描かれた薬屋

現代にはこれに準ずる便利な剤形が存在します。それは、「漢方エキス製剤」と言われるものです。現在みなさまが服用する漢方薬の多くはこの剤形だと思えます。これは煎じ薬をフリーズドライ加工したもので、よくインスタントコーヒーに例えられます。1回分ごとに包装されているので、簡便で、飲みやすく、保存・携帯しやすいものになっています。



忙しい現代の令和の町人(笑)には、とてもありがたい剤形ですよ。

この剤形は一般的な顆粒製剤に見えますが、原料は生薬ということになります。つまり限りある大切な資源から作られています。

便利とはいえ、大事に携えて服用して行きたいな・・・と思いつつ、今回は終わりにしたいと思えます。



新型コロナウイルス感染症対策

現在、予防用にマスクを買われている方が多いですが、感染症の拡大の効果的な予防には、

風邪や感染症の疑いがある人たちに使ってもらうことが何より重要です。

#マスクの使い方考えよう #新型コロナウイルス対策

- 1 **マスクは買い占めなくても大丈夫**
風邪や感染症の疑いのある人にマスクを届けるために、必要な分だけ買うようにしましょう。
- 2 **使い捨てマスクがないときは代用品を使おう**
ガーゼマスクや、タオルなど口を塞げるものでも飛沫(くしゃみなどの飛び散り)を防ぐ効果があります。
- 3 **こまめな手洗いなどの基本も大事**
帰宅時や、料理・食事の前など、口や鼻に触れる前に、こまめに手洗いなどをしましょう。

マスク不足を解消するために官民連携して
毎週**1億枚**以上のマスクを消費者のみなさまにお届けします。

厚生労働省 啓発資料より

第10号 2020年3月30日

発行/(公社)甲府市薬剤師会

編集担当/会報編集委会